

県内看護職者の継続教育研修受講の実態

キーワード：看護職者 継続教育 研修受講

○奥山はるみ 渡辺千奈美 内田一美 西村明子 雨宮ふく美 渡邊清美 海野聖子
奥脇百合子 小田静 北川なおみ 齊藤弓子 新藤真由美 水下陽子 土屋真理子
永田明子 中山美加 日澤けさ美 松野優子 望月美恵 白沢はるみ 池田直子 小宮山裕子
公益社団法人山梨県看護協会教育委員会

I. はじめに

看護者は、常に、個人の責任として継続学習による能力の維持・開発に努める責務がある¹⁾。山梨県看護協会では、平成17年度のニーズ調査を受け、研修内容の変更、ラダーシステムの導入と強化、継続教育の体系化を図り、年間約50件、参加者人数のべ2000名の研修を企画・運営している。しかし、近年、診療報酬の改定にあわせて企画した研修への受講者は増えているものの、その他の研修では受講者が減ってきている現状である。

社会の変化に伴い、看護職者に期待される役割や活動の場は増大していることから、看護職者の研修に対する考えや期待する内容、参加しやすい環境なども変わってきているのではないかと考えた。これまで各回の研修会後にアンケート調査を実施し評価を行っているが、参加者から得られる結果であり、参加しない(できない)会員の要望については把握ができていなかった。そこで、全協会員を対象とした実態を把握することで、より良い研修企画に活用したいと考え調査した。

II. 目的

看護協会員の研修受講に関する実態を明らかにし、教育委員会としての研修企画に関する示唆を得る。

III. 方法

1. 対象：A県看護協会会員全員 5,581名
2. 調査期間：平成29年3月～5月
3. 調査内容：1)基本属性；(1)職種，(2)所属施設，
2)研修受講の意識；研修受講は必要か，受講は自由意志で決められるかなどの7項目について「はい」「いいえ」で回答。
3)研修受講希望時に重要視する事項；研修内容，運営，職場の環境，家庭環境などからなる22項目について「はい」「いいえ」で回答を得た。
- 4)過去1年間(H28.4～H29.3)の研修受講の有無，および，(1)受講者には受講回数，参加日の取り扱い，費用，動機など，(2)受講しなかった者にはその理由を調査内容3)と同項目へ「はい」「いいえ」の回答，および自由記載とした。
- 5)受講したい研修について自由記載で回答を得た。

4. 調査手順：看護協会員宛に郵送にて依頼文・調査票を配布。3週間を締切りとし返信用封筒にて提出。

5. 分析方法：基本属性および調査内容は項目ごとに記述統計を行った。自由記載は意味内容ごとに分類した。

6. 倫理的配慮：本調査は公益社団法人山梨県看護協会理事会の承認を得た。対象者に調査の趣旨や調査内容・方法，参加の任意性，参加拒否・中断の方法と権利確保，個人情報の保護と匿名の確保，調査結果の報告について，文書で説明し同意を得た。

また，調査協力への強制を排除するため，管理者へ提出確認不要の依頼，および，返信用封筒は個別に封をしたのちの提出とした。

IV. 結果

1. 調査用紙は5,581名に配布し，4,296名より返答があった(回収率77%)。調査用紙の職種，および大項目に無回答のあった136名を分析から除外し，4,160名を分析対象とした(有効回答率97%)。

2. 対象者の概要

対象者は保健師310名(7.5%)，助産師127名(3.1%)，看護師3,490(83.9%)，准看護師233名(5.6%)であり，所属施設は行政機関298名(7.2%)，病院〔400床以上〕1,158名(27.8%)，病院〔100-399床〕1,956(47%)，病院〔99床以下〕296名(7.1%)，介護施設77名(1.9%)，訪問看護ステーション160名(3.8%)，その他160名(3.8%)，なし他55名(1.1%)であった。

3. 研修受講の意識

研修の受講を「必要」と思う人は4,016名(96.5%)，「受講のための調整が必要」3,824名(91.9%)，「受講したい」は3,742名(89.9%)，「研修は自由意志で決められる」3,426名(82.4%)，「受講を強制されることがある」1,705名(41.0%)，「研修内容を生かす場がある」3,474名(83.5%)，「研修を計画できる院内体制がある」2,685名(64.5%)であった。

4. 受講希望時に重要視する事項

質問した18項目すべて「はい」の回答が50%を超えていた。多い順に「関心のあるテーマ・内容」3,888名(93.5%)，「上司や周囲の理解がある」3,350名(80.5%)，

「受講しやすい日数」3,302名(79.4%)、「自施設で学習できない内容」3,283名(78.9%)、「受講意欲がある」3,243名(78%)、「研修の情報が適当」3,219名(77.4%)、「費用の負担が少ない」3,163名(76%)、「受講しやすい時間帯」3,132(75.3%)などであった。

5. 過去1年間の研修受講

1)研修の受講はあり2,000名(48%)、なし2,160名(52%)であった。

(1)受講の実態 (n=2,000)

①受講回数は1回1,144名(57.2%)、2回411名(20.5%)、3回以上394名(19.6%)無記入51名(2.6%)であった。研修参加の扱い(複数回答)は出張1,381名、休暇571名、有給休暇176名、費用は自費685名、一部助成270名、全額助成1,078名、手続きは個人615名、施設1,458名であった。

受講動機は多い順に「テーマに興味」634名(32%)、「上司の勧め」526名(26.3%)、「スキルアップ」252名(12.6%)、「委員として」195名(9.8%)、「実践上の問題とテーマの一致」133名(6.7%)などであった。受講者のうち、他者に受講をすすめたものは762名(38.1%)であった。

(2)受講なしの理由(n=2,160)

受講しない理由は22項目の選択肢のうち50%が「はい」と回答したものは、「疲れているので休養したい」1,172名(54.3%)、「休暇が取れない」1,092名(50.6%)、40%以上が「受講したい研修がない」917名(42.5%)、「研修費用が負担」878名(40.6%)であった。自由記載は177件あり、多い順に「協会以外の研修や学会に参加している」43件、「妊娠・子育て、介護、病気」28件、「受講したい研修がない」15件、「研修の情報が不十分・情報を得にくい」「定年後・定年間近・ベテランのため若い人にゆずる」14件、「仕事を代わる人がいない」13件、「研修方法(事前課題やグループワーク)などに対する不満」6件などであった。

6. 開催してほしい研修

開催してほしい研修(自由記載)は664件あり、多い順に「看護技術関連(フットケア・口腔ケア・摂食嚥下・心電図・人工呼吸器・薬剤管理など)」64件、「訪問・在宅看護や地域医療関連」44件、「保健師向け」37件、「周術期看護」30件、「看護管理」22件、「退院支援」15件、「認知症看護」14件、「ハラスメント関連(パワハラ、セクハラ、DVなど)」「終末期看護」13件、「精神科看護」11件、「助産・新生児ケア」11件、「障がい児看護」10件、「小児看護」8件などであった。

V. 考察

研修受講に対する意識では必要、参加したいが90%以上、自由意志で決められるが82%である一方、強制も41%であった。受講決定時に重要視する事項でも受講者の動機も関心のあるテーマ・内容と上司・周囲の理解やすすめが上位であったことから、看護職者は研修受講意識が高く、テーマに関心をもって研修受講を検討するな

かで、上司の勧めや周囲の理解が後押しになって決定しているのではないかと考えられた。

受講しない理由では、「受講したい研修がない」、「疲れ」、「家族役割に時間を割く」、「費用が負担」などが多かった。個人的な理由への関与は難しいが、負担があるなかでも参加したい(してよかった)と思えるような、テーマ設定、開催期間・日数・時間帯、受講方法の工夫が検討課題である。過去1年間の受講者のうち40%は2回以上の複数受講者であったことから、受講が次の研修受講への動機づけになっている可能性が示唆された。

開催を希望する研修内容をみると、専門性の高いもの、具体的な技術、対象に特化した内容などが多かった。平成17年度に実施した調査²⁾では「看護技術」特に「感染」「災害」「がん」が多いのに比べ、本調査では「高齢者」を対象とした看護実践項目が多かった。時代背景に伴うニーズがあることをふまえて先見性のある研修を企画すること、看護協会が主催する研修内容が担うべき役割を明確にし、他の学会や研修会との協働・連携を図ることも必要であろう。

一方で、希望する研修には現在開催しているものも含まれているが、「受講したい研修がない」「情報を得にくい」といった意見や、所属施設や役割に関する事項の希望があった。テーマや情報から希望研修とは異なると判断された可能性も少なくない。テーマに看護の対象や研修内容を正確に反映することが課題である。しかしながら、診療科や疾患名が入れると病院の看護師が対象と思われやすい。看護協会の研修では、職種間や専門間での連携や情報共有を意図する内容も多いことから、テーマの改善とあわせて情報提供方法の見直しが課題である。

また、過去1年間での研修参加についての意見であり、H28年度の企画のみに対する意見であることが本研究の限界である。

VI. 結論

A県内の看護協会員は、研修受講意識は高く過去1年間に受講した人の40%は2回以上の受講であった。受講動機は「テーマに興味」「上司のすすめ」、受講しなかった理由は「疲れている」「休暇が取れない」「受講したい研修がない」「研修費用が負担」であった。

開催を希望する研修は専門性の高い内容や具体的な技術が多かった。

これらのことから、ニーズにあった魅力的な研修企画をすること、研修内容を的確に反映したテーマ設定、個人的な負担がある中でも受講しやすい日時や期間の工夫の必要性が示唆された。

VII. 引用文献

- 1)日本看護協会、看護者の倫理綱領、日本看護協会出版会、2003
- 2)泉宗美恵、遠藤みどり、小野興子他：Y県看護協会における教育研修に対するニーズ調査、山梨看護学会誌、15(1)、110-111、2007